

## 第20回山形市中心市街地活性化戦略本部会議議事録

- 1 開催日時 令和4年9月7日（水）午後2時00分～午後3時00分
- 2 会場 山形市役所 11階 大会議室
- 3 出席者
  - (1) 本部員7名

山形市長		佐藤 孝弘
山形市観光協会	会長	平井 康博
山形青年会議所	理事長	吉田 昌平
山形大学	教授	山田 浩久
東北芸術工科大学	教授	馬場 正尊
城下町やまがた探険隊	隊長	新関 芳則
NPO 法人やまがた育児サークルランド	代表	野口 比呂美
  - (2) 山形市中心市街地活性化戦略推進コーディネーター  
まちづくりプラン研究所 代表 牧 昭市
  - (3) オブザーバー  
山形市副市長・山形エリアマネジメント協議会副会長 井上 貴至
  - (4) 事務局15名  
商工観光部長、山形ブランド推進課長、山形ブランド推進課課長補佐、  
街なか・商業グループ員（3名）、山形商工会議所（1名）、  
山形エリアマネジメント協議会（3名）
- 4 傍聴者  
記者：3名
- 5 内容
  - (1) 報告  
・令和4年度の事業の実施状況について
  - (2) 協議  
・山形市中心市街地グランドデザイン改訂の骨子（案）について
- 6 資料の名称
  - ・資料1 令和4年度事業の実施状況 報告資料
  - ・資料2 やまがた街なか出店サポートセンター 相談者属性
  - ・資料3 やまがた街なか出店サポートセンター 相談者出店マップ
  - ・資料4 令和4年度業種構成調査結果
  - ・資料5 山形市中心市街地グランドデザイン改訂の骨子（案）について
  - ・参考資料 改訂前のグランドデザイン概要版

・資料6 来街者アンケート調査結果について

7 議事録

(1) 開 会 (事務局)

(2) 山形市長あいさつ

山形市においては、平成31年に「山形市中心市街地グランドデザイン」を策定し、これに基づき山形エリアマネジメント協議会を中心に街なかの出店サポートや情報発信、キャッシュレス化の推進など様々な戦略プロジェクトを推進してきた。

中心市街地はコロナ禍の厳しい状況の中、大沼や老舗料亭「千歳館」の閉店等の様々な動きがあり、賑わいが減少している。一方では新たな動きも相応にあり、御殿堰を活用した街区整備や民間主導のマンション建設が進んでいる。直近の状況としても、「やまがたクリエイティブシティセンターQ1」が今月1日にオープンしたほか、「やまがた秋の芸術祭」も同日に始まり、加えて東北芸術工科大学主催の「山形ビエンナーレ2022」も3日から開催され、街なかにおける様々な文化芸術活動により賑わいが創出されている。

また、旧大沼や旧千歳館の利活用について、現在、様々なご意見を伺いながら検討を重ねている状況である。本日はこうした状況に合わせて、より一層、中心市街地のあり方を明確にし、官民連携や民間投資を促していくことを目的にグランドデザインの改訂を検討してまいりたい。本日は改訂の骨子を示させていただくので、それぞれの立場から忌憚のない意見を賜り、当市の中心市街地の更なる価値の向上、活性化に力添えをいただきたい。

(3) 議事録署名人の指名 (本部長)

山田 浩久 本部員

新関 芳則 本部員

(4) 報 告

座 長 内容について事務局から説明をお願いします。

事 務 局 「令和4年度の事業の進捗状況について」、  
(約13分)

座 長 質問、意見等はあるか。

本部員一同 なし

(5) 協議

- |     |  |
|-----|--|
| 座長  | 内容について事務局から説明をお願いします。  |
| 事務局 | 「山形市中心市街地グランドデザイン改訂の骨子（案）について」説明。<br>(約14分)  |
| 座長  | 質問、意見等はあるか。  |
| 本部員 | 改訂骨子（案）は、当初説明を受けたものと比較するとブラッシュアップされて良いものであると所感している。「歩くほど幸せになるまち」というテーマは、子供からお年寄りまでが分かりやすい短い表現でありながらも、核心を突いた表現である。耳に残りやすく、行政が掲げる都市戦略のコピーライティングとしては、レベルが高いものであると感じた。拠点の整備や創出は従前のグランドデザインから記載されていたが、骨子（案）では中心市街地のエリア図に落とし込まれており、どのように回遊したら歩きながら楽しめるのかという点や、各ゾーンが拠点を中心にどのような都市機能を充実されるのかという点について、ブラッシュアップされていると感じた。  |
| 座長  | 従前のグランドデザインで記載した内容について、より際立たせていくものは明確に記載していくという点は今回の改訂のポイントの一つであると考えている。   |
| 本部員 | 「歩くほど幸せになるまち」のテーマを勘案すると、城下町やまがた探検隊の役割もより重要になっていくものと感じている。探検隊の近況としては隊員自体の高齢化の問題や利用者の満足度に関する課題に直面している。また、コロナ前は年に6回の実施で80名から100名程度を数えていた利用者数について、コロナ禍により30名から40名程度に減ってきていたが、今年度は再び80名から100名程度の水準に戻ってきている。こうした中で隊員からは取組を更に磨き上げていきたいという声が上がっており、戦略本部会議において様々な情報などを頂戴しながら今後の方向性を検討し色々と企画していきたい。千歳館についても今後何か協力できることがあれば積極的に取り組むとともに、市民により直結していくような方策なども講じていきたいと考えている。「歩くほど幸せになるまち」のテーマに寄り添った内容で今後の取り組みなどを考えていきたい。 |

座 長 中心市街地における動きが活発になっており、今後、数年来にわたり多発的に街なかに動きが出てくるので、そうした点も様々な方に共有しながら、楽しんでいただければと考えている。また、説明には無かった点だが、10月よりシェアサイクル事業を開始する予定であり、歩くことに併せてシェアサイクルの展開により、回遊の幅を広げていきたいと考えている。

本 部 員 資料5の6ページに記載の7つのコンセプトはゾーニングと関係してくるのかという点と、資料5の9ページに記載のゾーニングの名称を変更するにあたって、ゾーニング自体を変更するという考えは無かったのかという点について考えをお聞きしたい。

事 務 局 ゾーニングについては事務局においても検討を重ね、微修正はあるものの大幅に変更しないこととした。先ほど説明した通り、従来の「観光情報発信推進ゾーン」から「商業強化・観光機能集積ゾーン」への名称変更、「居住・誘客推進ゾーン」から「居住・誘客推進・オフィス誘致ゾーン」への名称変更、ならびに「料亭文化ゾーン」の方向性認定ゾーンから戦略的計画ゾーンへの位置付けの変更の3点を変更したいと考えている。7つのコンセプトについては、エリアマネジメントを推進していくにあたり、全ての分野の取組において7つのコンセプトを意識しながら進めていくという考え方である。

本 部 員 個別にコンセプトとゾーニングが対応関係にあるわけではないという認識で良いか。

座 長 コンセプトは全体に横串を通すような横断的なものである。7つのコンセプトに留意しながらそれぞれの分野の取組を推進するために、いずれのゾーンにおいても共通する事項であると認識いただければと思う。

本 部 員 コンセプトの7つ目にDXの推進と記載があるが、具体的にはどのように展開されていくのか。

事 務 局 現状では具体的な事業を挙げられないが、街なか観光の観点としてはデジタル系のツールが導入されているほか、商業の面においてもDXを活用した商業の展開がなされているため、そういった点から積極的に取り組んでいくという考え方である。

座 長 その他、質問、意見等はあるか。

本 部 員	なし
座 長	事務局から提示のあった骨子（案）について、いただいた意見を踏まえて、改訂に向けて作業を進めていく。
(6) その他	
座 長	その他、質問、意見等はあるか。
本 部 員	<p>この場をお借りしてQ 1 がオープンするまでの経緯と今後の展開について紹介したい。</p> <p>2017年に山形市がユネスコ創造都市に加盟認定されたことを契機に、創造都市やまがたの拠点として位置づけられている施設がQ 1である。また、山形市の行政・経済・文化・教育の知性を集約し、創造都市やまがたを推進するうえでの行動指針となる「ミッション・ステートメント」をQ 1のオープンとともに策定している。</p> <p>Q 1の大きな特徴としては、公民連携のモデルとして創造都市やまがたの戦略を進めていくことに興味のある事業者がテナント入居している点であり、若いアーティストから大企業まで参画し、入居率は9割を超えている。まだ明言はできないが、驚くような大手企業にも入居してもらう予定がある。今後、入居できない企業が出た場合には、街なかの空き物件などに誘導しながら街のコンテンツを充実させていきたいと考えている。</p> <p>運営を行っている株式会社Q 1は山形市と東北芸術工科大学の連携協定を機に設立された完全民間出資の法人である。当法人は山形市より借用した土地と建物を活用して施設を運営することだけではなく、山形にひとつの産業を根付かることを目的として、地元企業と商品開発や地元企業の商品のプロモーション、新たな産業構造の創造などを見据え、地域商社と地域メディアを合わせたような新しい類型の地域企業を目指して成長発展していきたいと考えている。</p> <p>ようやく施設のオープンに辿り着いたが、まだスタートラインに立ったばかりであり、これからが勝負だと思っている。先日開催したナイトマルシェは大変好評をいただいております、何とかして毎月開催したいと考えている。こうした事業などをウォークアブルの推進やランドデザインの具現化に向けた戦略プロジェクトとしっかり連携させていきたい。</p> <p>改めて申し上げるが、「歩くほど幸せになるまち」は素晴らしいテーマだと感じている。Q 1は資料の中心市街地エリア図において中心に位置しており、戦略プロジェクトの推進においても物理的なハブになるように運営を進めていきたい。</p>

座長	Q1はこれから新たな要素も加わり変化し、今後も動きが出てくる施設なので、本部員の皆様には様々な協力を賜りたい。
コーディネーター	<p>現状の骨子の状態だと、内容が見えにくいこともあると思われるが、次の段階の本編では踏み込んだ内容となっていく。例えば中心部のWi-Fi整備や滞在・滞留空間なども具体的に記載していくものと思われる。</p> <p>本日、初めてQ1に伺ったが、しっかりと設えがなされているイメージを抱いた。施設内の現状ではこれからオープンするような空間もあるが、一斉にオープンさせないという点はひとつのテクニックであるとも捉え、拝見させてもらった。</p>
座長	その他、質問、意見等はあるか。
本部員	私からチェリカについて報告させていただく。チェリカは現時点で1万枚発行している状況である。大手コンビニをはじめとして、Suicaに対応している店舗のみが利用可能な現状だが、循環バスや商店街と一体的に推進していきたいと考えている。前提としてJRとの協議が必要となるが、来年度に向けては、現状はバス利用しか対象にしていないポイント付与なども含めて商店街とどのように連携していくかを検討していく必要があると考えている。
座長	チェリカの普及に関してはキャッシュレス化の推進やMaasの観点からも重要なものであると考えている。

(7) 閉会 (事務局)